



音羽通信

令和5年12月1日 第9号
文京区立音羽中学校
文京区大塚1丁目9番24号
校長 齊藤 正富

粉骨砕身

進路学習主任 我謝 博史

9月23日は私にとって特別な日です。一生忘れることのできない日です。

彼は、中学3年生のとき私のクラスに在籍していた生徒でした。彼は、ある病で5月の半ばから学校に出てこられなくなりました。そういうことになるであろうことを彼はすでに知っていましたが、私は彼の、どんな時も文句を言わず、前向きに取り組もうとする姿勢を立派だと思っていた。彼は学校に行けなくても、自分の生きたい進路先を見つけ、目標を達成するために自宅学習に熱心に取り組んでいました。

2学期になってクラスでは、四字熟語で自分の目標を書こうということになりました。国語が苦手、でも一度始めたら中途半端にはできない彼の性格も手伝い、漢和辞典と戦う日々が続きました。彼が「粉骨砕身」という言葉を選んだのは2週間後でした。時間をかけて選んだ言葉だったからか、彼は白く小さい紙に黒く大きな文字でその言葉を刻みました。

文字通り「骨を粉にし、身を砕くほどに」彼はそれからも頑張って学習に取り組み、目標であった一番行きたかった学校に合格しました。中学校の卒業式は病室で行いましたが、私の呼名に対する力強い返事は希望に満ちていました。高校に進学後は1日も通学できませんでしたが、「担任の先生が毎週来てくれるんだ。」と嬉しそうに語り、好きな英語を頑張っているようでした。

ある日、彼に呼ばれた気がしたので、病院にお見舞いに行きました。いつも通り体調や勉強のことなど何気ない話をし、挨拶をして別れました。それから2日後の9月23日に彼は亡くなりました。私が聞いた彼の最後の言葉は、私の「また来るよ。」に対する「はい。さようなら。」でした。

私が彼に学んだことは、目標を決め、自分が何をすべきかを自分で考え、どんな時も頑張ることでした。そしてどんな時も前向きでいることでした。

彼が亡くなって27年が経ちました。毎年彼のお墓の前に立つたびに、何をすべきか真剣に考えているのだろうか、自分でこれだと決めた目標に向かっていのだろうか、今自分は本当に頑張っているのだろうかと問いただしてみるのです。

11月の教育相談が終わり、3年生は本格的に進路選択が始まりました。「どの上級学校に進学するか。」に重点を置いてしまいがちですが、これは進路選択の最上位目標ではありません。5年後や10年後、またはその先に自分がどうなっていたいかを思い描き、それに向かって自分が進むべき路(みち)を定めていくことが大切なのです。

3年生だけではなく、1、2年生も自分の「ミライ地図」思い描いていますか？

◆ ◇ ◆ 12月の行事予定 ◇ ◆ ◇

4日(月) 生徒朝会・時間割3始 3年教育相談始・1年歯科講話	13日(水) 専門委員会・中央委員会
5日(火) 安全指導	18日(月) 職員会議
6日(水) 1・2年教育相談始 2年上級学校訪問 ~12日(火)	20日(水) 研修会
9日(土) 授業公開日・道徳授業地区公開講座	22日(金) 清掃活動
11日(月) 全校朝会	25日(月) 終業式・職員会議・研修会
12日(火) 全学年教育相談終・2年脊柱側弯症検診	26日(火) 冬季休業日始
	28日(木) 閉庁日
	※12月は「いのちと人権を考える月間」です。